

第61回日本リウマチ学会総会・学術集会
男女共同参画委員会企画シンポジウム
「上司と部下でつくるリウマチ医ワークライフバランス」

リウマチ医のワークライフ バランス

鳥取大学保健学科/リハビリテーション部 萩野浩
鳥取大学整形外科 林原雅子

リウマチ整形外科医としての
ワークライフバランス
～今までとこれから

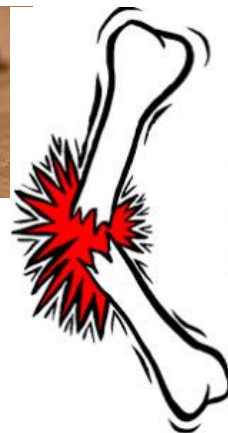
今までの経緯

H13年 鳥取大学整形外科学教室へ入局

当時は研修医制度はなく、まずは大学病院で研修

半年後 一般病院へ修行の旅へ・・・

3か所の病院で武者修行



当時の

「女だからって言われたくない！」が、空回りの日々

H17年 大学院生として、再び大学へ

大学院のテーマと指導医決定のとき

教授の豊島から「ハギちゃんにみてもらえ」

☞そこから始まりました。

*前教授の専門はリウマチ疾患であり、重要な研究テーマ。



上司：萩野医師とのかかわり

研究テーマ

わたくしと同僚(女性)で《骨粗鬆症：基礎》と《リウマチの転倒：臨床》のどちらかを選択することに

同僚：私動物実験やってみたい！



わたし：どちらでもいいよ

日ごろから主体性の弱いわたしには、残った「リウマチと転倒」が与えられました

研究開始

ハギちゃん：バーバラ、1年間の前向き研究をやってみよう！
まだリウマチではされていないから、
まずは患者さんにアンケートとってみよう

⇒ ‘バーバラ’ と呼び、**親しみやすく気軽に相談できる雰囲気**

バーバラ、結果を〇〇学会に出そう、次は△△学会に…

わたくし：はい、わかりました！

⇒主体性のないわたしに、
次々となすべきテーマを与え、自然と進んでいきました

メール：〇〇の結果はどう？できた？

その日の夜中？にメールを
返信

⇒その日あるいは翌早朝には返信が届いているのです

何時まで仕事されているん
だろう？油断できないなあ

緊急手術とか多くて忙しそうだけど、大丈夫か？
よく頑張ってるね！

⇒ときどき、臨床にかまけていると**フォロー**しつつ…
ところが、ある夜の出来事…

基本的にほめ殺し

こりゃ徹夜か？！

バーバラ、厚労省に提出するデータなんだけどお願いできるかな？

いつまでですか？

明日までにいいかなあ？

は、はいわかりました。

⇒時に、**気さくに無茶ぶり**。

「ハギちゃんの猫なで声には気を付けろ！」

⇒適度に**アメとムチ**を使い分けられ？



大学から一般病院へ

研究が終わり、論文書きは一般病院で。

「よーし！手術するぞー」と気合十分、一日の業務に追われる日々…

メール：進んどのか？ほかの大学から同じ内容の大規模データがでちゃうぞー

とりあえず、持ってきて

⇒忘れかけたところにジャブ。 **マメです**

*その間、定期的に連絡があり、**おしりをたたかれるよう**にせかさ
れ、
なんとか学位取得。



しまったー!

リウマチ医への道

鳥取ではリウマチを整形外科医が診ます

大学院修了後、一般病院へ

週1回大学上司（Y医師）と手術

—前任地でのできごと— 大学を離れて4年後

Y医師：大学戻って萩野先生がリウマチもお願いって

割と見る機会は多いです。嫌いじゃないです。

⇒リウマチは手疾患も多いし…

よし、リウマチ医＋手外科医をめざそう！

上司との良い関係があったことで順調に
仕事を進めることができました

リウマチ整形外科医として

2013年10月から大学でリウマチおよび手外科疾患を担当

2015年4月 手外科の上司が転院

結果的に

上の立場になっていきました

2016年4月 リウマチの上司が転院

*決して自ら切り開いていく性格ではなく、常に与えられた環境に対してがむしゃらにやってきました

⇒目の前の仕事で精いっぱい…ですが

何とかやってみよう

⇒こなすことで自然とskillupにつながっています

| | | | |
|-------|----|----------|-----|
| 2007年 | 3月 | 日本整形外科学会 | 専門医 |
| 2008年 | 3月 | 医学博士 | |
| 2016年 | 3月 | 日本リウマチ学会 | 専門医 |
| 2017年 | 3月 | 日本手外科学会 | 専門医 |

女性でよかった点、苦勞した点 ーリウマチ整形外科医として

◆ 良かった点

部長が親のような年齢差

☞ 温かく見守ってもらえた

同性からのサポート

☞ Nsにかわいがられる

患者さんから親しみを持ってもらえる

☞ よく相談される

同性の患者さんが多い

☞ 共感できるので本音を聞き出しやすい

* 薬物治療から外科治療までtotalで対応できることは強みです。
女性の視点で見られることも強みです。

女性でよかった点、苦勞した点 ーリウマチ整形外科医として

◆ 苦勞した点

上司との会話のネタがみつからない

☞ 休憩時に話せなかった

☞ 本音が言えなかった

男性と同じようにできなければ！という気負い

☞ 男社会に対する空回り

*** 自分を信じて続けること、自然体で仕事すること**

個人によってランニングカーブはそれぞれ

整形外科医から見た リウマチ診療

- リウマチ診療 知識の獲得 > 技術の習得
 - ↳ ネット社会は有効



- * 「いわゆる一般整形勤務医」から離れる＝手術から手を引く
 - ↳ 外来でのリウマチ診療は手術と同じくらい強みになる

* 自分のスキルが有効利用できる



整形外科の女性医師にとって、リウマチは魅力的な分野です
ぜひ、整形外科リウマチ医になりましょう

女性のキャリアアップについて

- ✓ 『女性』を意識しすぎることは逆効果？(男性の先生へむけて)

- * 女性医師は意外と男前です

- * 実際の能力を過小評価する傾向が強い

インポスター
症候群

- ✓ リウマチは内科から外科までtotalで見ることができる

⇒携わり方は様々

- 外来中心
- 研究中心
- 外来から手術まで

- ✓ 自分の境遇に応じた調整ができる環境配慮(病院、医局で)

私の考える ワークライフバランス

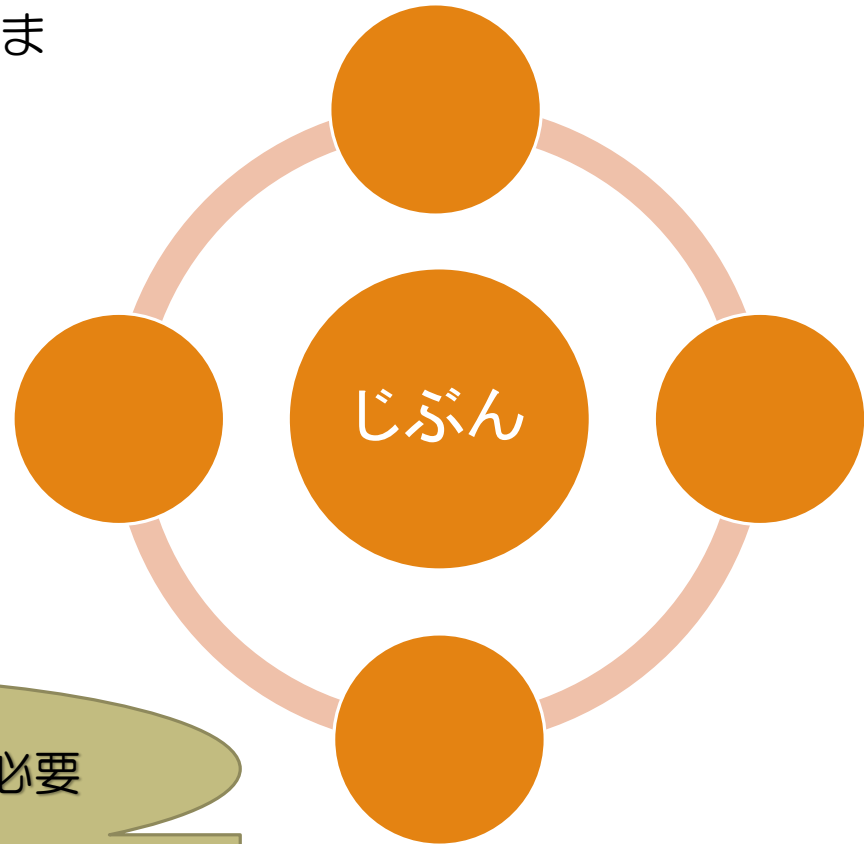
人によってバランスや内容はさまざま

その時々によって変化して、
自分を中心に回っている？

良いバランスを継続させるためには
周囲からのサポートが必要となる

⇒医局、病院から
マンパワーは不可欠

当然男性にも



様々なロールモデルが必要